

CT-S500

ファームウェア バージョン 1.06 取扱説明書

CT-S1000V

ファームウェア バージョン 1.02 取扱説明書

バージョン確認方法

1. MENUボタンを押します。
2. 液晶画面下の<ボタンを押します。
3. 液晶画面下のSETTINGボタンを押します。
4. 液晶画面下の<ボタンを押します。

CT-S500 (バージョン1.05以下)、CT-S1000V (バージョン1.01以下)の場合は、アップデートが必要です。

CT-S500

<https://support.casio.jp/download.php?cid=008&pid=2285>

CT-S1000V

<https://support.casio.jp/download.php?cid=008&pid=2287>

ファームウェアバージョン 1.06 (CT-S500) / 1.02 (CT-S1000V) のアップデート内容

本バージョンの変更点は次のとおりです。

- MIDIイン1～5チャンネルの渡し先をCポートからAポート(鍵盤演奏に使われるパート)へ変更できる機能を追加
- 特定のMIDIメッセージ(CASIO General System Exclusive、またはBank SelectとProgram Changeの組み合わせ)の受信によって、レジストレーション機能のセットアップを呼び出す機能を追加
- ユーザー歌詞音色データ、ユーザーボーカリストデータ、歌詞音色シーケンスデータについて、データ(ファイル)をUSBメモリーから本機へ読み込む機能を追加(CT-S1000Vのみ)
- MIDIインおよびSMF再生時の音色ごとの発音バランスを調整
- 一部の動作を改善

ファームウェアバージョン 1.06 (CT-S500) / 1.02 (CT-S1000V) の新機能

本バージョンで追加された機能について解説します。

■MIDIイン1～5チャンネルの渡し先をCポートからAポート(鍵盤演奏に使われるパート)へ変更できる機能を追加

1～5チャンネルに対するMIDIチャンネルメッセージを受信したときの渡し先を変えて、MIDIメッセージで鍵盤発音を調整したり、鍵盤の代わりにMIDIノートメッセージで発音させたりすることができます。

設定できる渡し先は、音源の33～37パートが属するCポートと、鍵盤発音に使用される音源の1～5パートが属するAポートです。

MIDIチャンネルメッセージの1～5chは、それぞれ、音源の33～37パート、もしくは、音源の1～5パートに対応します。

パートやポートについての詳細は、下記ホームページの「MIDIインプリメンテーション」をご覧ください。

CT-S500

<https://support.casio.jp/emi/manual/CT-S500/>

CT-S1000V

<https://support.casio.jp/emi/manual/CT-S1000V/>

SETTINGの項目に以下を追加しました。

設定項目名	説明	表示	設定値
MIDIイン 1-5Chポート	1～5チャンネルに対するMIDIチャンネルメッセージを受信したときの渡し先を変えて、MIDIインで鍵盤パートを使用できます。	MIDI In 1-5Ch Port	C, A (初期値: C) C: 受信した1～5チャンネルに対するMIDIチャンネルメッセージをCポートに属する音源の33～37パートへ送ります。 A: 受信した1～5チャンネルに対するMIDIチャンネルメッセージをAポートに属する音源の1～5パートへ送ります。これらのパートは鍵盤発音に使われています。

メモ

- 鍵盤発音に対する本機での設定とMIDIインでの設定とで、併せて設定される内容など、細かな部分が異なる場合があります。
- MIDIイン1-5Chポート設定に応じて、いくつかのMIDIシステムメッセージについて受信したときの動作が変わります。詳細は下記ホームページの「MIDIインプリメンテーション」をご覧ください。

CT-S500

<https://support.casio.jp/emi/manual/CT-S500/>

CT-S1000V

<https://support.casio.jp/emi/manual/CT-S1000V/>

■特定のMIDIメッセージ(CASIO General System Exclusive、またはBank SelectとProgram Changeの組み合わせ)の受信によってレジストレーション機能のセットアップを呼び出す機能を追加

本機が特定のMIDIメッセージ(CASIO General System Exclusive、またはBank SelectとProgram Changeの組み合わせ)を受信することで、レジストレーション機能のセットアップを呼び出すことができます。

MIDIメッセージの詳細は、下記ホームページの「MIDIインプリメンテーション」をご覧ください。

CT-S500

<https://support.casio.jp/emi/manual/CT-S500/>

CT-S1000V

<https://support.casio.jp/emi/manual/CT-S1000V/>

■ユーザー歌詞音色データ、ユーザーボーカリストデータ、歌詞音色シーケンスデータについて、データ(ファイル)をUSBメモリーから本機へ読み込む機能を追加(CT-S1000Vのみ)

下記のデータは、USBメモリーから本機への読み込み、名前の変更、および消去が可能です。

データタイプ		タイプ名表示	拡張子
ボーカルシンセシス	歌詞音色	LYRICS TONE	LYR
	歌詞音色シーケンス	LYR TONE SEQ	LYS
	ボーカリスト	VOCALIST	VCL

メモ

- USBメモリーが本機にマウントされると、ルートディレクトリに“MUSICDAT”という名前のフォルダが作成されます(USBメモリーに“MUSICDAT”フォルダがない場合)。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、このフォルダを使います。
- データのファイル名に半角英数字以外の文字が使用されていると、本機へ読み込むときに、ファイル名が正しく表示されない場合があります。

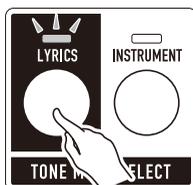
補足:歌詞音色シーケンスの使い方(CT-S1000Vのみ)

歌詞音色シーケンス機能を使うと、複数の歌詞音色をつなげて演奏することができます。歌詞音色シーケンスはスマートデバイス用のアプリ「Lyric Creator」で作成することができます。詳しくは楽器本体の取扱説明書「スマートデバイスとリンクしてLyric Creatorを使う」をご参照ください。

1. 専用アプリ「Lyric Creator」から歌詞音色シーケンスデータを転送するか、USBメモリーから歌詞音色シーケンスデータを読み込みます。

- 専用アプリ「Lyric Creator」からの歌詞音色シーケンスデータの転送は、専用アプリの取扱説明書をご参照ください。
- USBメモリーから歌詞音色シーケンスデータの読み込みについては、楽器本体の取扱説明書「USBメモリーから本機へデータを読み込む」をご参照ください。

2. LYRICSボタンを押し、LYRICS LEDを点灯させます。



3. 液晶画面の下部に“S”が表示されていることを確認します。



- “S”が表示されていない場合は、PLAY MODEボタンを長押しして“S”を表示させてください。

4. 鍵盤を弾いてみましょう。

歌詞音色シーケンスで指定した順番に歌詞音色が鳴ります。

- 1つの歌詞音色の演奏が終わると、歌詞音色シーケンスで指定した次の歌詞音色に自動で切り替わります。

歌詞音色シーケンスの最後の歌詞音色の演奏が終わると、歌詞音色シーケンスの最初の歌詞音色になります。

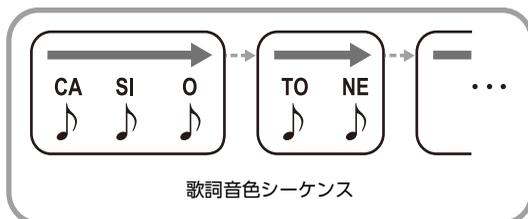
通常の歌詞音色演奏

鍵盤を押している間、歌詞が進みます。



歌詞音色シーケンスを使った歌詞音色演奏

鍵盤を押しなおすと、歌詞音色シーケンスで指定した次の歌詞音色に切り替わります。



フレーズの途中で鍵盤を押しなおすと、最後に発音した次の音節から発音します。

メモ

- PLAY MODEボタンを長押しすることで、歌詞音色シーケンス機能のオンオフを切り替えることができます。(一度も歌詞音色シーケンスを楽器に転送/読み込みしていない場合は、オンにできません。)
- ダイヤルで歌詞音色を変更すると、歌詞音色シーケンス機能は自動的にオフになります。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA2210-A

© 2022 CASIO COMPUTER CO., LTD.